

令和元年6月27日現在

機関番号：32716

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02344

研究課題名(和文) アジアにおけるオペラの受容構造と創造活動に関する研究

研究課題名(英文) A Research of the Structure for Acceptance of Opera and Opera Creation in Asia

研究代表者

石田 麻子 (Ishida, Asako)

昭和音楽大学・オペラ研究所・教授

研究者番号：50367398

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：東アジアを中心とするオペラの受容構造と創造活動を明らかにする研究を通じ、アジアと日本、欧米のオペラ制作との関係、アジア出身歌手等の活動状況に注目、それらが世界のオペラ制作に与える影響などを考察した。

特に、量的、質的状況の把握から、韓国と中国でのオペラ公演について、その制作の全体像を明らかにする端緒を得たことが主たる成果である。これらは、文化政策、劇場と団体の制作体制や財政、さらに劇場機能を補完する形での海外団体の招聘公演等の分析を通じた「上演システム」、歌手等のアーティストの育成などの「教育システム」等の研究によるものである。最終年度には複数の国際シンポジウム等で成果を国内外に広く公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

オペラの世界的な潮流の中でも、アジアにシフトしつつある近年のオペラ制作の最新の傾向と特徴を捉えた本研究成果は、まず、学会誌や研究紀要での論文発表をおこなって、国内での公開に努めた。これらの活動を通じて、フランスや中国で行われた国際シンポジウムへの招待講演にもつなげることができた。また、国内全国紙文化欄や専門誌等において、写真入りで本研究活動や招待講演の内容が紹介されたことで、アジアでのオペラ制作の状況を広く一般に周知できた。これらが、我が国のオペラ制作の協働先や、研究対象としてのアジアに対する意識を国内外に高める結果につながり、世界におけるオペラの制作の転換点を明らかにしたと言える。

研究成果の概要(英文)：We had focused on the opera production between Asia and Western countries, and also on the activities of the opera singers from Asia. These are through the researches of the structure of the acceptance of opera and opera creation especially in Eastern Asia. We have written some thesis about the current situation of the opera production in Korea and China. We had researched the quantity and the quality of the opera production. Those are about the production system through the research of the cultural policy, budget and the tour from abroad and the education system through the research of the singers' education in those countries. Ishida had been invited as the guest speaker for the international symposiums abroad in 2018. One of which was the open lecture held by Universite de Strasbourg and Opera national du Rhin in France. And in China, also had been invited as one of the main speaker at 'the 2nd International Arts Administration Shanghai Forum -Opera and China'.

研究分野：芸術実践研究

キーワード：オペラ公演 オペラ制作 劇場運営 アジアのオペラ公演 韓国のオペラ制作 中国のオペラ制作 日本
のオペラ制作

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまでに、研究代表者(石田)は、自身が研究統括者等の立場を務めた複数の調査研究事業を通じて、歌劇場運営、人材育成の事例やそれらの関係性等を研究、明らかにしてきた。これらは欧米の事例が中心であり、アジア各国における事例検証は未着手のままとっていた。とりわけ、アジアの中でもオペラ公演開催が拡大傾向にある中国でのオペラ受容に関する研究は、大きな課題として残されていた。韓国に関しても、オペラ上演に関する基礎データ収集を行ないつつあったものの、課題抽出の可能性が出てきた段階であり、両国のデータや事例を検討し、日本との比較検証を実施する段階までは踏み込めていない。韓国、中国と日本では、国によりオペラの受容開始時期が異なり、オペラをとりまく環境のうち、教育システム、歌劇場の運営状況やオペラ団体の有無、さらには文化政策等にも相異があると予測できた。特に、上演体制に関しては、オペラ団体の活動が活発な日本や韓国と、歌劇場でのオペラ制作が中心の中国という異なる特徴がある。また、大学卒業後に欧米各国に留学して教育を受け、その後世界各地の歌劇場に所属するというプロセスは3か国共通であるが、各国の高等教育機関と卒業後に所属する歌劇場付属研修所等との教育システムの接続状況は様ではない。これらの状況を踏まえ、3か国の「上演システム」とオペラ人材の「教育システム」の、2つの視点での比較検証が有効であると着想するに至った。韓国については、研究代表者と研究分担者(関)が『韓国におけるオペラの受容と創造の現在』として共同研究を開始、日本音楽芸術マネジメント学会での発表機会(2015年11月)に、韓国のオペラ上演データの収集や、歌劇場やオペラ団体の事例検証に関する現状報告を行った。また、ソウル市オペラ団団長であり、韓国の文化体育観光部が設置した国立韓国芸術総合学校元総長で、作曲家のLee Geonyongからも、韓国における創作活動手法について様々なアドヴァイスを既に受け始めていた。しかし、中国に関してはオペラ上演や教育に関する基礎データ収集が必要な段階だったため、本研究開始後、ただちに作業を始める必要があった。

2. 研究の目的

本研究は、継続的にオペラが上演されている韓国と中国での状況を中心に、日本と比較検証して受容構造の相異を明らかにし、さらにアジア各国のオペラ受容研究の基礎にしようとしたものである。1.「上演システム」研究で、韓国と中国の文化政策と歌劇場設置形態や運営方式、並びに韓国のオペラ団体の活動や組織を検証、2.韓国と中国のオペラの「教育システム」(高等教育機関での歌手等の育成手法、卒業後の他教育機関との接続)を把握、3.韓国で行われているオペラの「作品創作活動」手法を検証、4.日本のオペラ人材育成状況(上記)と海外の歌劇場に所属する人材の状況を新たに把握した。韓国と中国のオペラの受容構造と作品創作を含めた創造活動を日本と比較分析することを目的に設定した。

3. 研究の方法

研究代表者は、これまでに日本での「オペラ受容」研究を専ら推進してきた。これを本研究における基礎的な考え方とし、オペラ公演を提供する制作体制、資金確保の状況、およびアーティストの人材育成という提供者側の視点、さらに観客の鑑賞状況をはじめとする受け手側双方の視点をインタビューやデータ収集などを通じて明らかにする研究手法をとった。

韓国と中国における歌劇場、オペラ団体による「上演システム」は、オペラ上演が先行する韓国と、現在国内で歌劇場の整備を進めている中国、それぞれの運営やこれらに影響を与えている文化政策などの把握を行ってきた。歌劇場運営に関しては特に、財政、運営体制等のデータ収集分析を進めてきた。こうして主にマネジメントと文化政策の両面から、日本との比較研究分析を可能な状況にした。さらに、韓国、中国の高等教育機関は歌手、指揮者等のオペラ関連人材育成の拠点として重要な役割を担っており、複数の大学のカリキュラム把握と分析等により「教育システム」を明らかにする端緒にした。

4. 研究成果

本研究の成果は、アジア各国の中でも特に韓国と中国のオペラ公演を、日本のオペラ公演との比較を通じて、その全体像を明らかにする端緒を得たことにある。量的、質的把握、それらを文化政策、各地の劇場や団体の制作体制、それらを補完する形でおこなわれている海外団体の招聘公演などの「上演システム」、歌手等のアーティストの育成などの「教育システム」との関連性から明らかにした。

韓国におけるオペラ団体主導のオペラ制作の在り方が、本研究を通じて一層はっきりしていく中で、大邱オペラハウスが行う劇場主導のオペラ制作は特筆すべき事例である。国内外で多数の優れたオペラ歌手が活動している韓国の「教育システム」と日本の比較において、大きく異なるシステム上の相違は見て取れなかったものの、海外に活動の場を求める韓国のアーティスト達のキャリアパスに特徴を見出すことができた。

中国におけるオペラ制作は、まず、同国で、オペラの定義をどう考えるかという定義に加えて、各地で大規模なオペラハウスが次々と建設されている中、国および各地域の文化政策との関係が不可分であり、欧米各国からのオペラ公演輸入が、オペラ劇場の存在を支える役割を担っていることも明らかになった。

既述のような本研究で把握したアジアにおけるオペラ公演受容の現状は、国内外での講演や

シンポジウムの中で広く公開することができた。

まず、2018年3月17日に昭和音楽大学において、日本と中国・韓国との共同制作を展望する「東アジアの実演芸術による国際文化交流を展望する国際シンポジウム～新たな文化芸術創造活動の創出に向けて～日本・中国・韓国の実演芸術の現在と未来を問う」を企画、開催した。研究代表者がシンポジウムでの司会進行を務めたが、中国および韓国におけるオペラ上演の状況に関する知見をもとに議論を総括できた。

さらに研究代表者は、2018年3月23日に、フランス・ストラスブール大学で開催された国際シンポジウム *Colloque International 'Corps et Message ~ De la Structure de la traduction et de l'adaptation'* において '*Jouer l'opéra au Japon: réception et tendances actuelles*' と題した招待講演を行い、本研究の一部を発表した。これは、日本におけるオペラ受容について、蝶々夫人 および フィガロの結婚 の複数の上演を例に分析したもので、マネジメントがいかに舞台演出に影響を与えているのかという視点で検証した。

また、藤原歌劇団の本公演プログラム冊子に「韓国のオペラ上演の現状とオペラ歌手～アジアから世界へ～」昭和音楽大学におけるマスタークラスでのプログラム冊子にも「オペラ人材育成の現在」を寄稿し、本研究の調査による成果を広く共有した。これは、研究目的のうち、2「韓国と中国のオペラの『教育システム』」、4「日本のオペラ人材育成状況」の研究成果を一部還元したものである。

加えて、2018年11月24～25日に、中国・上海において開催された国際シンポジウムで、これらの研究成果を国際発信する機会を得た。この国際シンポジウムは *The 2nd Arts Administration Shanghai Forum, 'Opera and China'* と題して上海音楽学院で開催されたものである。研究代表者は、日本から唯一のゲストとして、ミラノ・スカラ座アレクサンダー・ペレイラ総裁、パリ・オペラ座ステファン・リスナー総裁と共に招待され、アジアにおける国際共同制作の可能性等について、1時間の単独講演を行った。この模様は、日本経済新聞文化欄（2018年12月15日、朝刊全国版）で詳報されたのをはじめ、中国21都市から集まった参加者、フランスやシンガポールからの参加者達によって共有、We Chat によるインタビューも行われ、中国国内外に広く発信された。本シンポジウムでの議論を通じて得られた知見や分析を、研究代表者が研究論文としてまとめて、公表したことなどを通じて、広く共有できた。

いずれも、東アジアを中心とするアジア地域におけるオペラ受容研究を、国内外に発信する有効な機会となったと考えたとともに、本研究の成果を通じて、日本国内および国際的な関心を喚起することに役だった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

関鎖京・石田麻子「韓国におけるオペラの受容と創造」日本音楽芸術マネジメント学会『音楽芸術マネジメント』第8号、平成29年2月、23～34ページ。

関鎖京・石田麻子「韓国国立オペラ団の歴史及び現状」日本音楽芸術マネジメント学会『音楽芸術マネジメント』第9号、平成30年12月、27～41ページ。

石田麻子「東アジアにおけるオペラの受容構造と創造活動」『音楽芸術運営研究』第12号、昭和音楽大学、平成31年3月、5～19ページ。

〔学会発表〕(計 4 件)

関鎖京・石田麻子、口頭発表「韓国におけるオペラ受容と創造の現在」日本音楽芸術マネジメント学会第8回研究大会、平成27年12月。

関鎖京・石田麻子、口頭発表「韓国の国立オペラ団の歴史及び現状」日本音楽芸術マネジメント学会第9回研究大会、平成28年12月。

関鎖京・石田麻子、口頭発表「地域との関係構築からみたオペラハウスのマネジメント～韓国・テグオペラハウスを事例に～」日本音楽芸術マネジメント学会第11回研究大会、平成30年12月。

Asako Ishida, Jouer l'opéra au Japon: réception et tendances actuelles, Colloque International, Corps et Message ~ De la Structure de la traduction et de l'adaptation, Université de Strasbourg, France, March.23,2019

〔図書〕(計 1 件)

共著『*Corps et Message ~ De la Structure de la traduction et de l'adaptation*』Editions

Picquie, Feb. 2019.

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名： 関 鎮京
ローマ字氏名： Ming Jinkyung
所属研究機関名： 北海道教育大学
部局名： 教育学部
職名： 准教授
研究者番号（8桁）： 80431386

(2)研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。